

# 平成29年度 施策評価シート

基本目標	I	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	130	水と緑を活かした、美しい景観をつくる
施策	132	水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間をつくる
施策の目標	魅力的な水辺空間や緑豊かな公園が、区民や来街者にうるおいとやすらぎをもたらし、にぎわうとともに、まちの至るところに緑が増え、水と緑を親しむまちになっています。	

## 1 基本計画における成果指標の状況

指標名	緑被率 (※緑と生物の現況調査10.5% (平成21年度) に、開発指導要綱等の緑化指導による増加分を含めた推計値。)									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標					12.2%					13.0%
実績	11.4%※									
指標名	「墨田区の公園や水辺を日常的に利用している」区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標					50.0%					60.0%
実績	43.8%									

## 2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移 (千円)	
<p>一定規模以上の建設事業に対する開発指導要綱等に基づく指導により、緑被率は徐々に増加している。しかし、本区は住宅等が密集しているため、緑化に適した場所が限られており、緑地の整備は進みにくいことから、大幅な緑被率の向上は難しい状況である。</p> <p>今後は、緑被率の向上を進めながら、まちなか緑化(緑と花のまちづくり推進地域制度)や立体緑化(屋上緑化・壁面緑化)を推進して、生活の中で緑を身近に感じる「緑感」を、区民・事業者・区の協働により高めていく。区は区有地や公共施設・学校における緑化を率先して行うとともに、区施設の既存屋上緑化等について、良好な緑地を維持する必要がある。</p>	H28	18,005
	H29	
	H30	

## 3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	緑被率は、民間建築物に対する指導等により少しずつ増加している。また、緑感が向上してきたことで、緑の豊かさを感じる割合(住民意識調査結果)が増えている。

## 4 今後の施策の運営方針

評価	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
○	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
墨田区の緑被率は23区でも下位であり、現在の緑化施策を継続して緑を増やしていく必要がある。	
【今後の具体的な方針】	
多くの人の目に留まる場所に、まちなか緑化(緑と花のまちづくり推進地域制度)事業実施地域を増やし、公共施設に壁面緑化を導入することで緑感を提供する。また、区施設の既存屋上緑化等の継続的な点検及び維持補修計画に基づく保守を行い良好な緑地を維持する。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標		直近の評価内容
				年度目標値	推移	評価結果
				年度実績値		評価対象年度
1	公共施設・民間建築物の屋上等緑化推進事業	39	緑被率の向上及びヒートアイランド現象の緩和を図る。	2,246	→	改善・見直し
				2,246		平成28年度
2	緑と花のまちづくり推進地域制度	5,804	区民と緑と花のサポーター（緑化ボランティア）と区の協働により、視覚的効果のある箇所に花壇やプランターを設置することで、まちを緑や花で飾り、区民及び来訪者にうるおいとやすらぎをもたらしている	11	→	改善・見直し
				11		平成28年度
3	壁面緑化の推進	2,533	壁面緑化や緑のカーテンによる、地球温暖化防止対策やヒートアイランド現象緩和の一助となるとともに、緑感が向上した。	25.6	→	改善・見直し
				25.6		平成28年度
4	緑と花の学習園及び緑の救急隊運営、緑化推進PR事業	7,960	自然環境や生物多様性に対する環境学習、環境教育の機会を設けることで、多くの区民等が環境にやさしいまちづくりに参加するようになる。水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間づくりが行われるようになる。	10,600	↗	現状維持
				10,630		平成28年度
5	緑と花のサポーター制度	272	「緑と花の学習園」や「まちなか緑化」など、緑を守り・育てる活動を通じて、うるおいと環境にやさしいまちづくりに寄与している。	31	→	現状維持
				31		平成28年度
6	環境保全啓発事業	570	自然環境や生物多様性に対する環境学習、環境教育の機会を設けることで、多くの区民等が環境にやさしいまちづくりに参加するようになる。水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間づくりが行われるようになる。	15	→	改善・見直し
				13		平成28年度
7	森林整備体験事業	413	森林整備作業（植林・下草刈り・間伐）を通じて、区内で生活する中で実感することのできない自然の役割について学び、緑や自然に対して親しみを感じてもらう。	45	↗	改善・見直し
				43		平成28年度
8	緑のへい設置奨励	129	緑のへいを設置することで、緑感が向上し、区民及び来訪者に潤いと安らぎを与えてくれる。また防災面でも有効であることから、制度の周知を進めていく。	1093	→	改善・見直し
				1093		平成28年度
9	特別保全樹木補助事業	285	区内の良質かつ貴重な樹木及び生け垣を保全し、墨田区の緑として未来に引き継いでいく。	30	→	改善・見直し
				30		平成28年度

# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	策	132 水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間をつくる	部内優先順位					
事務事業	公共施設・民間建築物の屋上等緑化推進事業					1		
事業概要	平成13年度 庁舎屋上緑化見本コーナー開設 (庁舎工事に伴い、平成26年7月から一時閉鎖中) 平成15年度 屋上等緑化整備に対する補助事業開始 平成15年度 開発指導要綱に基づく屋上緑化指導開始 平成20年度 集合住宅条例に基づく屋上緑化指導開始 大規模開発時や集合住宅の建設時に屋上緑化の設置を指導している。					主管課・係(担当)		
						環境保全課 緑化推進担当		
						03-5608-6208		
施策への 関連性	緑被率の向上及びヒートアイランド現象の緩和を図る。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	地上部に緑地の設置が難しい本区の土地利用の現状で、屋上緑化の設置は有効な緑化推進策であることから、区民の関心は高い。							
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等)							
	区内は建物が密集して地上部の緑地を増やすことは難しく、緑感を高めるために屋上緑化を推進していく必要がある。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	屋上緑化助成件数				単 位	件
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		2	37	目 標	2	2	2	
				実 績	0			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目 標	2	2	2	2	2
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	民有地の屋上緑化推進のために屋上緑化助成制度を実施している。建物の構造上の問題や、緑化工事費用が高額であることから、年度ごとの大幅な件数の増加は望めない。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	助成による屋上緑化面積(平成15年度からの累計)				単 位	㎡
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		2,516	37	目 標	2276	2306	2336	
			実 績	2246				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目 標	2366	2396	2426	2456	2486	
	実 績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
各年度の申請数に差異があるため、累計での目標値とする。								
財 政 面 (決算額) (単位:千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	39							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 増加傾向				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
<b>判断理由</b>					
条例等に基づく義務的な緑地整備も行われているが、地上部の緑地を増やすことは難しい。緑被率を高めるために民間建築物の屋上緑化の推進は必要である。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
ヒートアイランド現象の緩和や緑被率の向上等、屋上緑化は環境区宣言に合致した緑化施策である。		4	5	4	4
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>改善・見直しの上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
要件や事務手続きの見直しを行い、利用促進を図る。					
<b>中間・最終年度の講評</b>	既存公共施設の屋上緑化について、良好な緑地を維持するため、点検を実施し点検結果に基づき、維持補修計画を策定した。				
<b>今後の方向性</b>	維持補修計画に基づき、計画的に維持補修を実施して、屋上緑化を良好な状態に維持する。また、屋上緑化が都市部の緑化として有効なものであることをPRし、区民の理解を深めていく。				

# 平成29年度 補助金評価シート

補助金 名称	屋上等緑化整備補助金						主管課・係（担当）	
根拠法令	墨田区屋上等・壁面緑化整備補助金交付金要綱						環境保全課緑化推進担当	
事業概要	新たに屋上を緑化する建築物の所有者を対象に、その工事費の一部を助成する。						03-5608-6208	
							事業の終期	
							平成37年度	
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	類似事業はないので代替可能性はないと考える。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	屋上緑化助成件数				単 位	件
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		2	37	目 標	2	2	2	
				実 績	0			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	2	2	2	2	2	2
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	民有地の屋上緑化推進のために屋上緑化助成制度を実施している。建物の構造上の問題や、緑化工事費用が高額であることから、年度ごとの大幅な件数の増加は望めない。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	助成による屋上緑化面積（事業開始年度からの累計）				単 位	㎡
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		2,516.00	37	目 標	2,276.0	2,306.0	2,336.0	
				実 績	2,246.0			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	2,366.0	2,396.0	2,426.0	2,456.0	2,486.0	2,516.0
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
各年度の申請には差異があるため、累計での目標値とする。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	0							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 助成実績にあわせて減少傾向				
施策への 関 連 性	区民に屋上緑化をPRし、緑感を高める事業として、屋上緑化補助事業は有効である。							

1 必要性・妥当性			5	
区が実施する理由があるか	ある	目的が政策上の位置付けと整合しているか	している	
目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか	している	不特定多数の利益の増進に寄与するか	している	
区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか	認められる	個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか	する	
区の施策目標の実現に寄与しているか	している			
判断理由				
新たに屋上を緑化する建築物の所有者を対象に、その工事費の一部を助成する。区内は建物が密集し、地上部の緑を増やすことは難しいため、屋上緑化を進める必要がある。				
2 有効性・適格性			4	
経費、補助額の算定根拠が明確になっているか	なっている	交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか	されている	
区が負担する割合として適切か	適切である	補助団体の活動内容が目的と合致しているか	該当なし	
任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか	該当なし	補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか	ある	
補助目的が既に達成されていないか	されていない	目標及び見込まれる効果が明確か	不明確	
団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか	なっている	効果測定の具体的な目標・指標が明確か	不明確	
判断理由				
ヒートアイランド現象の緩和や緑被率の向上等、屋上緑化は環境区宣言に合致した緑化施策である。				
3 効率性・経済性			5	
類似する補助事業がないか	ない	地域社会や区民等へ波及効果があるか	ある	
手続が過度に煩雑でないか	煩雑ではない	個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか	該当なし	
目的に対する区の負担割合が適切か	適切である			
判断理由				
本事業を利用できる建築物は限られるが、区民（個人）が屋上緑化を設置する際の支援をする必要がある。				
【評価結果】				
改善・見直し				
中間・最終年度の講評	本補助金についての周知を図っているが、既存建築物については、構造上の理由から設置が困難な事例が多い。また、既存民間建築物の屋上緑化について、良好な緑地を維持するため、屋上緑化調査事業について周知した。			
今後の方向性	緑化補助事業全般を再検証し、利用が向上するように検討していく。また、屋上緑化が都市部の緑化として有効なものであることをPRし、区民の理解を深めていく。			

# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	132	水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間をつくる	部内優先順位					
事務事業	緑と花のまちづくり推進地域制度					2		
事業概要	町会や自治会などを対象に、「緑と花のまちづくり推進地域」を選定し、視覚的効果のある場所にプランター等を設置して、緑と花のサポーターの協力を得て、区が助成する花苗、土、肥料などを使い、地域住民が植栽の維持管理を行い、うるおいのあるまちづくりを推進して「緑感」を向上する。					主管課・係（担当）		
						環境保全課 緑化推進担当		
						03-5608-6208		
施策への関連性	区民と緑と花のサポーター（緑化ボランティア）と区の協働により、視覚的効果のある箇所に花壇やプランターを設置することで、まちを緑や花で飾り、区民及び来訪者にうるおいとやすらぎをもたらしている							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	地域の環境美化（緑や花を増やすこと）への関心は高い。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	区が、まちなか緑化に必要な物資を提供するだけでなく、地域の方々に緑や花の維持管理を継続してもらうため、区で講習会を実施する等のフォローが不可欠なため、代替可能性はないと考える。							
有効性・適格性	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	プランター、花壇、ハンギングバスケット数				単 位	基
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		460	37	目標 実績	400 412	420	425	430
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	435	440	445	450	455	460
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	設置個数を指標にすることにより、緑化が、点から線や面で展開していることが確認できるため。目標値については、オリンピック・パラリンピック開催に伴い、さらに緑化のニーズが高まると予測できるため。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	まちなか緑化「緑と花のまちづくり推進地域制度」実施地域（延べ）				単 位	地域
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		22	37	目標 実績	13 11	14	15	
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		16	17	18	19	20	22	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
オリンピック・パラリンピック開催に向けて、より多くの地域でまちなか緑化を実施し、来訪者や区民に緑と花でやすらぎとうるおいを感じてもらえることが望ましいため。								
財政面 (決算額) (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	5,804							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 緑と花のサポーター（ボランティア）や地域住民と公募ボランティアとで行っており、事務経費は削減している。				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
<b>判断理由</b>					
墨田区の緑被率は、23区の中でも下位（22位）に位置し、緑被率の向上に向け、身の回りの緑地整備をさらに進めていく必要がある。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしていない				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ない				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
多くの区民が環境について、主体的に活動できるようにするため、事業の精査を行い、区民の参画や区民ボランティアを育成する必要がある。		4	2	4	4
<b>3 効率性・経済性</b>		<p style="text-align: center;">改善・見直しの上継続</p>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	類似事業はあるが統合等は望ましくない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
事業者・区民、緑化ボランティア（緑と花のサポーター）と区が協働で実施することにより、最小限の経費で、区内各所に緑や花が増えて「緑感」の向上が得られていることから、効率性・経済性は非常に高い。					
中間・最終年度の講評	実施地域（区民）の緑化知識の向上を図るため、講習会を実施した。また、新規事業地域を増やすため周知を図ったが、プランター設置場所が民有地に限定されているため増加には至らなかった。				
今後の方向性	新規事業地域を増やすため、関係機関と情報共有を図っていく。また、産学官での連携を視野にいれながら、緑化のソフト面の充実を図っていく。				



# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	132	水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間をつくる	部内優先順位					
事務事業	壁面緑化の推進					3		
事業概要	「緑のカーテンづくり」「ハンギングバスケットづくり」などの壁面緑化講習会、民間建築物壁面緑化の工事費の一部助成、公共施設への緑のカーテン設置支援、緑のカーテンポイント（すみだエコポイント）、緑のカーテンコンテストを実施して、壁面緑化を推進する。					主管課・係（担当）		
						環境保全課 緑化推進担当		
						03-5608-6208		
施策への関連性	壁面緑化や緑のカーテンによる、地球温暖化防止対策やヒートアイランド現象緩和の一助となるとともに、緑感が向上した。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	地上部に緑地の設置が難しい本区の土地利用の現状で、壁面緑化や緑のカーテンの設置は有効な緑化推進策であることから、区民ニーズは高い。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	第二次すみだ環境の共創プランに掲げる、区民等と協働で壁面緑化を推進するために、区内の関係団体（墨田区ハンギングバスケット協会・墨田朝顔愛好会）と連携して事業を進めるには、区の方角性を示し導いていく必要があり代替可能性は考えにくい。							
有効性・適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	ハンギングバスケットづくり講習会 (区民対象)				単位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		4	37	目標 実績	3	3	3	
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	3	3	4	4	4	
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	指標の実績数は目標数値の前後で推進しており、今後は緑感の向上にむけて推進していく。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	住民意識調査「緑の豊かさ」 (良い+やや良い)				単位	%
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		29.6	37	目標 実績	25.6	26	26	
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		27	27	28	28	29		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
人通りの多い公共施設における壁面緑化を区が率先して行うことにより、区民に壁面緑化の効果を実感してもらうとともに、区民・事業者による壁面緑化の取組に向けた機運の醸成を図る。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	2,533							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 増加傾向				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
講習会は、参加者が多く、区民の関心は高い。また、壁面緑化は、緑感の向上に貢献している。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
身近にできる、ハンギングバスケット・緑のカーテンは、住宅街に設置が可能である。また、公共施設の緑のカーテンモデルや壁面緑化は、区民・民間事業者にうるおいやすらぎの提供及び壁面緑化の有効性を啓発している。		5	5	4	4
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>改善・見直しの上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ない				
<b>判断理由</b>					
ハンギングバスケット・緑のカーテンを通じて、緑化推進に意欲を持つ区民を育てるとともに、地域のコミュニケーションが推進するなど、大きな効果が期待できる。					
<b>中間・最終年度の講評</b>	民間建築物への壁面緑化や緑のカーテンの設置等により、住民意識調査においても「緑の豊かさ」（緑感）について約3割の区民が肯定的評価をしている。				
<b>今後の方向性</b>	壁面緑化や緑のカーテンの設置を推進するため、内容を検証しながら講習会の実施や設置支援等をしていく。緑化補助事業全般を再検証し、利用が向上するように検討していく。				

# 平成29年度 補助金評価シート

補助金名称	壁面緑化整備補助金						主管課・係（担当）	
根拠法令	墨田区屋上等・壁面緑化整備補助金交付要綱						環境保全課緑化推進担当	
事業概要	新たに壁面を緑化する建築物の所有者を対象に、その工事費の一部を助成する。						03-5608-6208	
							事業の終期	
							平成37年度	
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	地上部に緑地の設置が難しい本区の土地利用の現状で、壁面緑化や緑のカーテンの設置は有効な緑化推進策であることから、区民ニーズは高い。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	第二次すみだ環境の共創プランに掲げる、緑感の向上を達成するため、該当建築物（戸建住戸や個人事業所等）は限定されるが、区民を対象にした本事業を継続する必要がある。							
有効性・適格性	手段に対する指標 (活動指標)	指標	壁面緑化助成件数				単位	件
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		2	37	目標	2	2	2	
				実績	0			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	2	2	2	2	2	2
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	民有地の壁面緑化推進のために助成制度を実施している。建築物の立地条件等本制度の利用には制約があるため、年度ごとの大幅な件数の増加は望めない。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	助成による壁面緑化面積（事業開始年度からの累計）				単位	㎡
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		108.3	37	目標	68.3	73.3	78.3	
			実績	63.3				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		83.3	88.3	93.3	98.3	103.3	108.3	
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
各年度の申請には差異があるため、累計での目標値とする。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	0							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 助成実績にあわせて減少傾向				
施策への関連性	区民に壁面緑化をPRし、地域特性を考えた緑感を高める事業として、壁面緑化補助事業は有効である。							

1 必要性・妥当性		5	
区が実施する理由があるか	ある	目的が政策上の位置付けと整合しているか	している
目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか	している	不特定多数の利益の増進に寄与するか	している
区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか	認められる	個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか	する
区の施策目標の実現に寄与しているか	している		

判断理由

市街地の緑感を増やすため、壁面緑化の助成制度を実施している。壁面緑化を設置するために、建築物の立地条件等本制度の利用には制約があるが、区民を対象にした本事業を継続する必要がある。

2 有効性・適格性		4	
経費、補助額の算定根拠が明確になっているか	なっている	交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか	されている
区が負担する割合として適切か	適切である	補助団体の活動内容が目的と合致しているか	該当なし
任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか	該当なし	補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか	ある
補助目的が既に達成されていないか	されていない	目標及び見込まれる効果が明確か	不明確
団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか	なっている	効果測定の具体的な目標・指標が明確か	不明確

判断理由

民間建築物への壁面緑化等の普及により、住民意識調査においても「緑の豊かさ」（緑感）について約3割の区民が肯定的評価をしている。

3 効率性・経済性		5	
類似する補助事業がないか	ない	地域社会や区民等へ波及効果があるか	ある
手続が過度に煩雑でないか	煩雑ではない	個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか	該当なし
目的に対する区の負担割合が適切か	適切である		

判断理由

本事業を利用できる建築物は限られるが、区民（個人）が壁面緑化を設置する際の支援をする必要がある。

<p>【評価結果】</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">改善・見直し</p>	
--	--

中間・最終年度の講評	民間建築物への壁面緑化設置等により、住民意識調査においても「緑の豊かさ」（緑感）について約3割の区民が肯定的評価をしている。
今後の方向性	壁面緑化を含め、緑化の補助事業の全般を再構築し、波及効果等の検討が行われるようにする。

# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	132	水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間をつくる	部内優先順位					
事務事業	緑と花の学習園及び緑の救急隊運営、緑化推進PR事業					4		
事業概要	昭和47年「緑化宣言」、昭和56年に「緑と花の学習園」を開園し、積極的に緑化を推進している。環境フェアやすみだまつり等のイベントにて、緑化推進の啓発を実施している。					主管課・係(担当)		
						環境保全課 緑化推進担当		
						03-5608-6208		
施策への 関連性	緑と花の学習園は、区民が緑(植物)について「見て・学び・相談できる」施設として、緑化相談や年間を通して講習会を実施している。園内に植えられている四季折々の植物によって、来園者にうるおいとやすらぎを与える空間が作られている。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	緑と花の学習園では、季節ごとのイベントを開催している。平成28年度には、さくらまつり(来園者475人)、みどりの日(来園者230人)、菊まつり(来園者1288人)を開催した。区内において、植物を間近で観察することのできる数少ない施設でもあるため、必要性は十分にある。							
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等)							
<p style="text-align: center;">緑と花の学習園を拠点に区内の緑化を推進している。他の事業とも連携して、緑化推進を行っていることから代替の可能性についてはないと考える。</p>								
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	緑化講習会等の参加者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		1,830	37	目標 実績	1,450	1,490	1,530	
		1,404	H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	1,580	1,630	1,680	1,730	1,780	1,830
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	学習園等での緑化講習会の開催や苗の配布により、緑化の推進・啓発を図り新たな緑(植物)を増やすことに繋がるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	緑と花の学習園来園者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
13,300		37	目標 実績	10,900	11,200	11,500		
10,630		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		11,800	12,100	12,400	12,700	13,000	13,300	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
緑化相談を通じて既存の緑(植物)を適正に維持管理するための知識・手段を提供するため。								
財政面 (決算額) (単位:千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	7,960							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 委託料等増加傾向				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
<b>判断理由</b>					
緑化ボランティア（緑と花のサポーター）の活動拠点として、また、区民が緑（植物）について「見て・学び・相談できる」緑化推進の拠点施設として必要である。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
緑と花の学習園は、区民が緑（植物）について「見て・学び・相談できる」施設として、緑化事業の拠点として、地域に緑化事業を根づかせてきた。		4	5	5	5
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>現状維持の上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	類似事業はあるが統合等は望ましくない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
園内の一部を、維持管理を緑と花のサポーター（緑化ボランティア）が行うことで、区民との連携を図るとともに、コスト削減に寄与している。					
中間・最終年度の講評	各種緑化啓発イベント、緑化講習会や緑化相談等に多くの参加を得た。また、緑と花のサポーター自ら園内の一部を維持管理する等して、区民との協働による効率性・経済性向上を図っている。				
今後の方向性	緑被率向上に向けて、本園を拠点としてソフト面を担う緑と花のサポーターの養成をさらに進めるとともに、区民の参加を得ながら緑化の諸施策をさらに推進していく。				

# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	132	水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間をつくる	部内優先順位					
事務事業	緑と花のサポーター制度					5		
事業概要	公募した「緑と花のサポーター」が「緑と花の学習園」を活動拠点として、区内にある「まちなか緑化」などの植物の手入れや、区が主催するイベント・緑化講習会にボランティアとして参加することで、区民の緑化に対する意識の向上、緑化に関心のある人のネットワークの拡大につなげていく。					主管課・係（担当）		
						環境保全課 緑化推進担当		
						03-5608-6208		
施策への 関連性	「緑と花の学習園」や「まちなか緑化」など、緑を守り・育てる活動を通じて、うるおいと環境にやさしいまちづくりに寄与している。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	緑化の推進を行うにあたり、緑と花のサポーターの協力は不可欠である。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	緑と花のサポーター登録数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		56	37	目標 実績	48	49	50	
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	51	52	53	54	55	56
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	安定したサポーター活動を行うため、登録人数を指標とした。(毎年度/1人増)							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	緑と花のサポーター実働数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
40		37	目標 実績	32	33	34		
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		35	36	37	38	39	40	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
活動状況（実際に活動（1回以上/年度）した人数）について把握するため。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	272							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 横ばい				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
<b>判断理由</b>					
緑に関心のある方は多く、今後もボランティアの微増が見込まれる。区民と区が協働して緑化を推進する。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
緑と花のサポーターが活動を通じて、区民相互のコミュニケーションの推進が図られている。		4	5	5	5
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>現状維持の上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
緑全般に係わるボランティアは、緑と花のサポーターである。まちなか緑化事業等を通じて、区民にボランティアの楽しさ・大切さを伝えている。					
<b>中間・最終年度 の講評</b>	ボランティアの高齢化が進んでいるが、新規ボランティアの募集を進めて、人材の継承を図った。また、研修会を実施して、緑化知識の向上や共有を図った。				
<b>今後の 方向性</b>	産学官で連携を取りながら、学生の協力を得て、緑被率や緑感を高める施策を進めていく。				



# 平成29年度 事務事業評価シート

施 策	132	水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間をつくる	部内優先順位					
事務事業	環境保全啓発事業					6		
事業概要	すみだ環境の共創プランに基づき、自然観察会や環境体験学習の機会を提供することで、区民及び事業者、学校に対して環境保全に関する啓発を行う。					主管課・係（担当）		
						環境保全課 緑化推進担当		
						03-5608-6208		
施策への 関 連 性	自然環境や生物多様性に対する環境学習、環境教育の機会を設けることで、多くの区民等が環境にやさしいまちづくりに参加するようになる。水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間づくりが行われるようになる。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	区内の自然について学ぶ機会が少ないことから、子どもや親子で観察することができることからニーズは高い。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	区内の教育施設等と連携して、各種事業やボランティアの育成を実施していることから、代替可能性は難しい。							
有効性・ 適格性	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	小学校への環境学習対応（ヤゴ救出事業、ビオトープ造成支援等）				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		20	37	目標 実績	18	18	18	
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	19	19	19	20	20	
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	小学校の環境学習支援を指標とすることで、子どもたちに対してどの程度環境啓発活動が行われているか知ることができる。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	自然観察会・自然環境観察員講座開催数				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
15		37	目標 実績	15	15	15		
H32		H33	H34	H35	H36	H37		
目標		15	15	15	15	15		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
区民向けに広く行われる自然観察会・自然環境観察員養成講座を指標とすることで、区民に対してどの程度環境啓発の機会が設けられたか知ることができる。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	570							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 増加傾向				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	不十分				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
<b>判断理由</b>					
未来を担う子ども達に、環境学習の場を提供することで、自然を大切に育てる区民を育む。第二次すみだ環境の共創プラン基本目標2に基づく事業。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
区内を環境学習のフィールドとして最大限活用して、コスト削減を図っている。また、郊外で実施する際は、公共交通機関を利用するなどして環境に配慮している。		3	5	4	4
<b>3 効率性・経済性</b>		<p style="text-align: center;">改善・見直しの上継続</p>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
区内の自然を親子で学ぶ機会を提供することで、子育て環境の充実も担っている事業である。交通費等一部を受益者負担としている。					
中間・最終年度の講評	子ども参加型の自然観察会（8回実施・115名参加）を実施して好評を得た。また、環境保全活動を担う自然環境サポーター（ボランティア）活動（9回・79名参加）を行うとともに、環境保全のリーダーを育成するため、自然観察員養成講座を実施して人材の育成を図った。				
今後の方向性	すみだの自然環境保全を担っていける人材を育成していく。				

# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	132	水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間をつくる	部内優先順位					
事務事業	森林整備体験事業					7		
事業概要	目的：環境学習の推進（第二次すみだ環境の共創プラン基本目標） 対象：小学生以上 内容：植林体験・山の日イベント・間伐体験を通じて、森林の公益性を学ぶ 平成23年度 事業開始／栃木県鹿沼市 平成28年度「山の日イベント」開始					主管課・係（担当）		
						環境保全課 緑化推進担当		
						03-5608-6208		
施策への 関連性	森林整備作業（植林・下草刈り・間伐）を通じて、区内で生活する中で実感することのできない自然の役割について学び、緑や自然に対して親しみを感ぜてもらおう。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	森林を会場として、親子で体験できる内容が多くあることから多数の申し込みがある。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	本事業は、友好交流・協力協定を結んだ鹿沼市や市内の林業事業者の協力を得て実施している。区民に対して緑や自然の大切さについて伝える環境学習の場を提供するため、区が主体となって取り組んでいく必要がある。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	森林整備体験開催回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		3	37	目標 実績	3	3	3	
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	3	3	3	3	3	
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	本事業が開催されることによって、普段経験することのない植林・間伐作業について体験することができ、緑や自然の役割について学ぶ機会となるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	森林整備体験参加者数（延べ）				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		45	37	目標 実績	45	45	45	
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		45	45	45	45	45		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
区民が「みどり」の大切さ、地球温暖化防止等に対して、どれだけ関心を持っているのか知ることができるため。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	413							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 平成28年度、山の日イベントを開始したため増加。				

<b>1 必要性・妥当性</b>								
区民ニーズの有無	ある							
代替可能性の有無	不十分							
区が実施すべき強い理由があるか	ある							
<b>判断理由</b>								
区民が森林整備活動を通じて「みどり」の大切さ、地球温暖化防止やヒートアイランド現象の緩和への効果を学ぶことができ、森林の教育的利用を推進することができるため公益性が高く、ニーズも多いことから必要性は高い。								
<b>2 有効性・適格性</b>								
事業の目的が施策に合致しているか	合致している							
指標は目標値を満たしているか	満たしている							
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある							
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	有効性 適格性			
区内に森林地域がなく、恵まれた自然環境が少ないため、多くの区民が森林と触れ合う機会が少ない。本事業は区民参加の植林及び間伐、下草刈りにより、森林の恵みや森林の必要性、森林の働きなどについて理解を深めることができる機会を提供していることは有効である。		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果			
		5	5	4	4			
<b>3 効率性・経済性</b>		<p style="text-align: center;">改善・見直しの上継続</p>						
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない							
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある							
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある							
<b>判断理由</b>								
本事業は、友好交流・協力協定都市である鹿沼市及び鹿沼市内の林業事業者の協力を得て実施するものであり、他の事業との統合は難しい。 事業経費については、材料費が若干増加したため28年度予算が増加しているものの、事業者等の協力により必要最低限の経費で実施しており、妥当と考える。また、星空観察会を同時に開催することでの効率化を図っている。								
<b>中間・最終年度の講評</b>	区内では体験できない森林整備作業等を通して、森林の公益性等を学ぶ機会を提供した。							
<b>今後の方向性</b>	多くの区民に体験していただき、その成果を生かせる仕組みを構築していく。							

# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	132	水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間をつくる	部内優先順位					
事務事業	緑のへい設置奨励					8		
事業概要	新たに道路に面した沿道部分に緑のへい等（生け垣又は植樹帯）を設置する場合に、その工事費の一部を助成する。また、ブロック塀を取り壊した跡に緑のへい等を設置した場合には、加算する。					主管課・係（担当）		
						環境保全課 緑化推進担当		
						03-5608-6208		
施策への 関連性	緑のへいを設置することで、緑感が向上し、区民及び来訪者に潤いと安らぎを与えてくれる。また防災面でも有効であることから、制度の周知を進めていく。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	地上部に緑地を増やすことが難しい区内において、緑を身近に感じられる緑感を高めていくことが求められている。生け垣や植樹帯が視覚に入ることや、民有地に緑を増やすことができるので、補助制度による緑のへいの推進は必要である。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	類似事業はないため、代替可能性はないと考える。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	緑のへい等助成件数				単位	件
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		3	37	目標 実績	3	3	3	
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	3	3	3	3	3	
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	緑のへいには視覚的効果があり、災害時には被害を抑制できるため、窓口やイベントで制度をPRして利用者を増やしていく。ただし、区内は住宅密集地が多く設置できる場所が限られているため、年度ごとの大幅な件数の増加は望めない。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	生け垣の長さ（平成元年度からの累計）				単位	m
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		1183	37	目標 実績	1103	1113	1123	
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		1133	1143	1153	1163	1173		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
各年度の申請（生け垣の長さ）には差異があるため、累計での目標値とする。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	129							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 横ばい				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	少ない又は減少傾向				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
<b>判断理由</b>					
区民の緑化への関心は高い。今後も、区民による緑化推進を支援する必要がある。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
地上部に緑地を増やすことが難しい区内において、民有地に区民自らが緑を増やすことで、緑を身近に感じられる緑感が向上されることは非常に有効である。		2	5	4	4
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>改善・見直しの上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ない				
<b>判断理由</b>					
自らの土地・経費を利用して、緑地の整備をする区民を支援する必要がある。					
<b>中間・最終年度の講評</b>	条例等で緑地の設置が義務づけられる建築物が多いため、補助対象建築物が少ない状況である。 利用促進を図るため、新築時に周知している。				
<b>今後の方向性</b>	緑化補助事業全般を再検証し、利用が向上するように検討していく。				

# 平成29年度 補助金評価シート

補助金 名称	緑のへい等設置補助金						主管課・係（担当）	
根拠法令	緑のへい等設置補助金等交付要綱						環境保全課緑化推進担当	
事業概要	新たに道路に面した沿道部分に緑のへい等（生け垣又は植樹帯）を設置する場合に、その工事費の一部を助成する。また、ブロック塀を取り壊した跡に緑のへい等を設置した場合には、加算する。						03-5608-6208	
							事業の終期	
							平成37年	
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	地上部に緑地を増やすことが難しい区内において、緑を身近に感じられる緑感を高めていくことが求められている。生け垣や植樹帯が視覚に入ることや、民有地に緑を増やすことができるので、補助制度による緑のへいの推進は必要である。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	類似事業はないため、代替可能性はないと考える。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	緑のへい等助成件数				単位	件
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		3	37	目標	3	3	3	
				実績	2			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	3	3	3	3	3	
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	緑のへいには視覚的効果があり、災害時には被害を抑制できるため、窓口やイベントで制度をPRして利用者を増やしていく。ただし、区内は住宅密集地が多く設置できる場所が限られているため、年度ごとの大幅な件数の増加は望めない。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	生け垣の長さ（平成元年度からの累計）				単位	m
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		1,183	37	目標	1,103	1,113	1,123	
			実績	1,093				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		1,133	1,143	1,153	1,163	1,173	1,183	
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
各年度の申請（生け垣の長さ）には差異があるため、累計での目標値とする。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
		129						
		H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 横ばい			
施策への 関連性	緑のへいを設置することで、緑感が向上し、区民及び来訪者に潤いと安らぎを与えてくれる。また防災面でも有効であることから、制度の周知を進めていく。							

1 必要性・妥当性		5	
区が実施する理由があるか	ある	目的が政策上の位置付けと整合しているか	している
目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか	している	不特定多数の利益の増進に寄与するか	している
区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか	認められる	個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか	する
区の施策目標の実現に寄与しているか	している		

判断理由  
 新たに道路に面した沿道部分に緑のへい等（生け垣又は植樹帯）を設置する場合に、その工事費の一部を助成することで、市街地の中の緑感を増すことに寄与している。

2 有効性・適格性		4	
経費、補助額の算定根拠が明確になっているか	なっている	交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか	されている
区が負担する割合として適切か	適切である	補助団体の活動内容が目的と合致しているか	該当なし
任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか	該当なし	補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか	ある
補助目的が既に達成されていないか	されていない	目標及び見込まれる効果が明確か	不明確
団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか	なっている	効果測定の具体的な目標・指標が明確か	不明確

判断理由  
 地上部に緑地を増やすことが難しい区内において、民有地に区民自らが緑を増やすことで、緑を身近に感じられる緑感が向上されることや、災害時には被害の拡大防止に有効である。

3 効率性・経済性		5	
類似する補助事業がないか	ない	地域社会や区民等へ波及効果があるか	ある
手続が過度に煩雑でないか	煩雑ではない	個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか	該当なし
目的に対する区の負担割合が適切か	適切である		

判断理由  
 単独の事業の補助を行っているため、単発的な補助となっている。地域の特性等を加味した、計画的な事業実施が必要である。

<p>【評価結果】</p> <h1 style="font-size: 2em;">改善・見直し</h1>	
---	--

中間・最終年度の講評	条例等で緑地の設置が義務づけられる建築物が多いため、補助対象建築物が少ない状況である。利用促進を図るため、新築時に周知している。
今後の方向性	緑化補助事業全般を再検証し、利用が向上するように検討していく。



# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	132	水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間をつくる	部内優先順位						
事務事業	特別保全樹木補助事業					9			
事業概要	区内に残された自然度の高い貴重な樹木や生け垣を「特別保全樹木」として指定し、剪定費用の一部を補助している。					主管課・係（担当）			
						環境保全課 緑化推進担当			
						03-5608-6208			
施策への 関連性	区内の良質かつ貴重な樹木及び生け垣を保全し、墨田区の緑として未来に引き継いでいく。								
必要性・ 妥当性	区民のニーズ								
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）								
	区内の貴重な樹木及び生け垣の継続的な維持管理のためには、本制度は有効であるため代替は考えられない。								
有効性・ 適格性	指標	特別保全樹木助成件数				単 位	件		
		最終目標値	目標年度	/	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		16	37	目標		8	9	10	
				実績	7				
		/	H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	11	12	13	14	15	16	
		実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由								
	補助制度の利用者に偏りが見られるため、特別保全樹木の所有者及び管理者に改めて制度を周知し、助成件数を増やしていく必要がある。								
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	特別保全樹木指定件数（事業開始年度からの累計）				単 位	件	
			最終目標値	目標年度	/	基準年(H28)	H29	H30	H31
			30	37	目標		30	30	30
					実績	30			
			/	H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目標	30	30	30	30	30	30
実績									
指標の選定理由及び目標値の理由									
土地の利用現状から、新規指定は難しいが、現指定樹木等を良好な状態に維持していく。									
	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34		
	285								
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 横ばい					

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
<b>判断理由</b>					
区内の貴重な樹木等を健全に末永く保つため必要である。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
樹木の維持管理費用の支援は、樹木の保全に最適である。		4	5	4	4
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>改善・見直しの上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ない				
<b>判断理由</b>					
要件や事務手続きの見直しを行い、利用促進を図る。					
<b>中間・最終年度の講評</b>	指定対象樹木等は限られているが、良好な状態を維持できるように支援することで、地域や区民等への「緑感」の提供に寄与している。				
<b>今後の方向性</b>	事業の区民への周知を通して、良質かつ貴重な樹木等を未来に引き継いでいくことの大切さを周知していく必要がある。				

# 平成29年度 補助金評価シート

補助金 名称	特別保全樹木等補助金						主管課・係（担当）	
根拠法令	墨田区特別保全樹木等補助金交付要綱						環境保全課緑化推進担当	
事業概要	区内に残された自然度の高い貴重な樹木や生け垣を「特別保全樹木」として指定し、剪定費用の一部を補助している。						03-5608-6208	
							事業の終期	
							平成37年度	
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	区内の貴重な樹木及び生け垣の継続的な維持管理のためには、本制度は有効であるため代替は考えられない。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	助成件数				単 位	件
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		16	37	目 標	8	9	10	
				実 績	7			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	11	12	13	14	15	16
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	補助制度の利用者に偏りが見られるため、特別保全樹木の所有者及び管理者に改めて制度を周知し、助成件数を増やしていく必要がある。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	指定件数（事業年度からの累計）				単 位	件
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		30	37	目 標	30	30	30	
				実 績	30			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
目 標		30	30	30	30	30	30	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
土地の利用現状から、新規指定は難しいが、現指定樹木等を良好な状況に維持していく。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	285							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 横ばい				
施策への 関 連 性	区内の良質かつ貴重な樹木及び生け垣を保全し、墨田区の緑として未来に引き継いでいく。							

1 必要性・妥当性			5	
区が実施する理由があるか	ある	目的が政策上の位置付けと整合しているか	している	
目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか	している	不特定多数の利益の増進に寄与するか	している	
区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか	認められる	個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか	する	
区の施策目標の実現に寄与しているか	している			
判断理由				
区内に残された自然度の高い貴重な樹木や生け垣を「特別保全樹木」として指定し、維持管理経費（剪定費用の一部）を補助することで、質の高い樹木を通して地域や区民に「緑感」を提供している。				
2 有効性・適格性			4	
経費、補助額の算定根拠が明確になっているか	なっている	交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか	されている	
区が負担する割合として適切か	適切である	補助団体の活動内容が目的と合致しているか	該当なし	
任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか	該当なし	補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか	ある	
補助目的が既に達成されていないか	されていない	目標及び見込まれる効果が明確か	不明確	
団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか	なっている	効果測定の具体的な目標・指標が明確か	不明確	
判断理由				
区内の良質かつ貴重な樹木及び生け垣を保全し、墨田区の緑として未来に引き継いでいくためには必要な施策である。				
3 効率性・経済性			5	
類似する補助事業がないか	ない	地域社会や区民等へ波及効果があるか	ある	
手続が過度に煩雑でないか	煩雑ではない	個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか	該当なし	
目的に対する区の負担割合が適切か	適切である			
判断理由				
良質かつ貴重な樹木等を未来に引き継いでいくため、良好な状態を維持できるように支援することで、地域や区民等への「緑感」の提供に寄与している。				
【評価結果】				
改善・見直し				
中間・最終年度の講評	指定対象樹木等は限られているが、良好な状態を維持できるように支援することで、地域や区民等への「緑感」の提供に寄与している。			
今後の方向性	事業の区民への周知を通して、良質かつ貴重な樹木等を未来に引き継いでいくことの大切さを周知していく必要がある。			